

『春日山原始林アートプロジェクト』

—千年の森と暮らしをつなぐ—

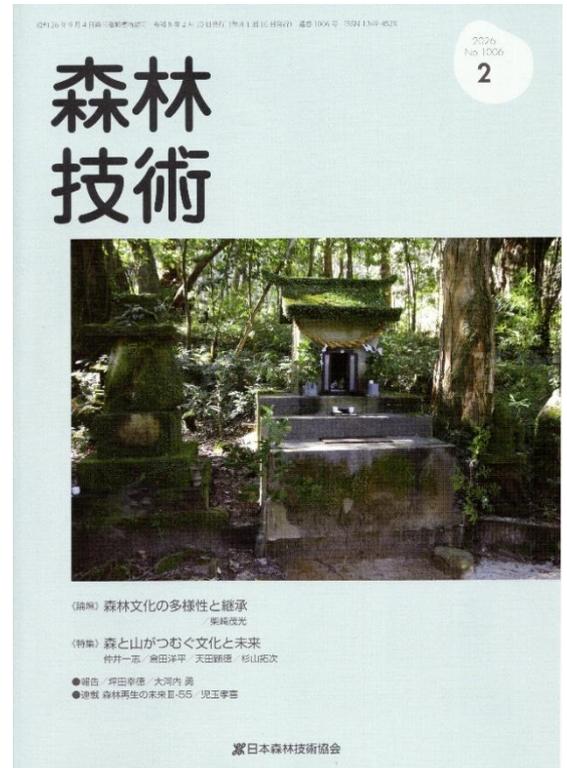
令和8年2月10日発行 春日山原始林を未来へつなぐ会：杉山拓次

日本森林技術協会誌『森林技術』は、森林・林業・自然環境に関わる最新の知見や実践事例を専門的かつ分かりやすく伝える協会史誌である。森林管理、保全、生態系、技術革新、地域文化など幅広いテーマを扱い、研究者・行政・現場技術者をつなぐ情報基盤として長年にわたり信頼を集めてきた。特集記事や現場報告を通じ、森林と社会の未来を考えるための重要な資料を提供している。

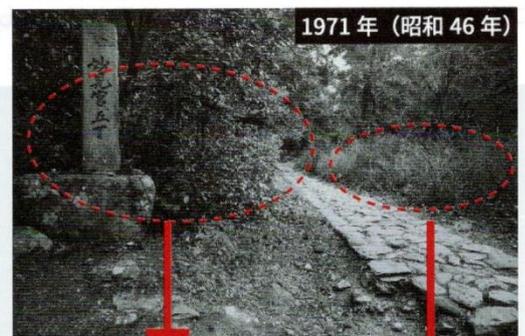
今号の特集記事の一つ、「春日山原始林アートプロジェクト」は、世界遺産・春日山原始林で倒木した樹齢600年の大杉をはじめ、原始林で生まれた木材を素材にアーティストが作品を制作する取り組みである。

人の手がほとんど加わらず独自の生態系を保ってきた春日山原始林は、シカの採食圧の影響などによりこれまで千年以上続いてきた森林更新が阻害されている。1970年代の写真と現在の同地点の写真と比較すると植生構造の大きな変化が確認される(右写真)。下層植生が消失し裸地化し将来の森林を形成する次の世代が育たず森林の世代交代が止まる。このため、ナラ枯れ対策、外来種駆除、植生保護策に取り組んでいます。

本プロジェクトは、大杉の倒木端材を用いたアートを通じて原始林の歴史・自然・文化を多角的に捉え直し、展示やワークショップを通じて市民が森と向き合う機会を創出し、その価値と課題を未来へつなぐことを目指している。



下層植生・ヤブの消失



▲図② 滝坂の道の経年変化

出典：図中モノクロ写真＝厚見昌彦氏撮影（昭和46年）。奈良県立図書館情報館ITサポート 奈良今昔写真WEB「柳生街道・柳生」<https://www.library.pref.nara.jp/supporter/naraweb/yagyuu.html>